

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	
記入者名 (管理者)	
記入日	平成 年 月 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設運営方針に「地域に密着したサービスを遂行する」を新たに加え地域に開かれた施設作りを実行しています	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議等においてあるごとに、ライフサポート理念を語り等にグループホーム鎌田運営方針の推進状況を検証している	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議(家族会)等で、地域との関り等の大切さを話し、理解を深めている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内の防災訓練、祭り等に参加し、ホームの存在、入居者さんを知ってもらうよう努力している。	○ 施設の位置が少し奥まってるためなかなか気軽には立ち寄っていただくことが出来ていない。施設を気軽に入ってきて頂ける様定期的なイベント等施設側でも考えていきたい
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設運営推進会議に鎌田地区町内会長はじめ民生委員の参加をお願いし、参加して頂いている。鎌田フェスタ等地域の催し物に参加している。また施設の夏祭りには地域の皆さんに声を掛け参加して頂いている。	○ 今年、秋にGH鎌田の秋まつりを開催する予定。鎌田地区住民の皆様にも参加して頂いて唯供養町内会長を通じてお願いしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		○	今後、町内会と相談しながら、地域の皆様に「介護保険について」や「高齢者の病気、認知症について」等の勉強会等の開催も提案したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今年は評価の内容が昨年までとガラリ変わり、職員一人ひとりの自己評価を持ち寄って施設の自己評価をする事になり、早速各自が自己評価をする事により、外部評価の意義を理解することが出来た。	○	今回の外部評価については、全員の自己評価を実施したうえでの外部評価ですから、職員一人ひとりの問題意識も高く、評価を検証し、具体的な改善に取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成20年6月26日に実施した運営推進会議は7家族9名様の参加を得、会議で話し合われたことは早速、7且の職員会議で報告され、推進会議での意見やご提案を真摯に受け止め今後のケアに活かして行きたいと話し合いました。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	静岡市高齢福祉課との連携をとっていますが、今後も連携を強くし、情報の収集、情報提供に努めたい。		市町村との連携をさらに強くして施設の向上に努めたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		○	今まで権利擁護事業や、成年後見制度を利用する利用者がいらっしやんな買ったため、制度の勉強会も実施していませんでしたが、今後は職員間で勉強会を実施して、必要な方に活用したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		○	「高齢者虐待防止、高齢者の擁護者に対する支援等に関する法律」の勉強会を実施する予定です。常に職員には、利用者有っての職員ですから、ある意味「お客様」でもあるという心構えで接して大切に考えております。施設での虐待やそれに類する行為は一切ありません。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者の契約には、施設長が立会いご家族には、納得のいくまでご説明し、ご理解とご協力を得るようにしています。また説明が不十分な場合には後日いつでもご説明することを申し上げており、後日ご相談に見える方も有りました。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見、不満、苦情等を表わせるよう「ご意見箱」を設けご意見を聞いたり、地域の居宅介護支援事業所との連絡を密にし、そこに寄せられる御家族のご意見、苦情等を大切に、施設運営に反映させております。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月定期的に施設内での様子を「あじさい」という期間紙に載せてご家族にお送りしています。健康状態については、主治医(協力医)の報告等も個々の御家族に報告しております。御家族からは「毎月の様子が分かってよい」との評判を頂いております。	三ヶ月に一度くらいの割合で入居者さんの写真と居室担当者がみた入居者さんの近況報告のようなものを一筆書き添えられたと思っています
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や不満、苦情は努めて聞くように心がけています。意見、苦情等は職員会議やその他の機会に討議し、運営に反映し、職員個々に対するものは個々に報告説明し反省を促し、施設全体の改善に努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第二火曜日を職員会議の日と定めて、各部署からの意見、提案を出し合いそれを施設運営に反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務時間の調整は必要に応じて随時行なっている	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は避けられない業種ですが、利用者配慮して出来るだけ少なくするように職員の協力を得よう努力してま	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ライフサポート全職員を対象とする研修会を実施しました。今後も定期的に継続していきたいと思います	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ライフサポートとして他の老人保健施設やグループホームでの研修や交流を実施しています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	今年二月、職員各自が平成20年上期に仕事をする上での目標を定め、毎月進捗状況を自己管理する目標管理システムを発足させました。これによって職員は、仕事に対する取り組みを宣言することにより各自の向上心をもって仕事に取り組んでいます。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居を決められる前にご本人とご家族に施設を見学していただき、その際施設長、ケアマネージャー、ユニットリーダーが面接し、困っておられること、不安な事、求めている事等をお聞きして、ご納得の上で入居契約をして頂くようにしています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記と同様	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に見えたときになぜグループホームがよいかお尋ねし、ご本人の状況によっては在宅支援あるいは特養、老健等をご紹介することもある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初めての施設利用は一般の人でも不安になるものです。ましてや認知症の方だと大変なことと思います。入居されたら御家族と一緒に職員を紹介したり、他の入居者を紹介したり、職員も一緒に居室の整理をお手伝いしながら徐々に馴染んでいただくよう努力してます。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	グループホームは認知症対応生活介護であるから入居者の目線で一緒に楽しみ、一緒に悲しんであげられるよう職員一同努力してます。認知症のためにすべてが喪失してはるわけではない。人生の先輩として大いに学ぶ姿勢を持って接するよう努力しています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、利用者の家族にはなれませんが家族の一員のつもりで利用者に接するようにしてます。家族の苦しみや悩みも一緒に取り組み、入居者さんを支える努力をしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族の中には認知症に対する理解が不十分なことから、良い人間関係(親子関係)を崩してしまってる方もおられます。このような場合御家族には改めて認知症を理解していただき以前の良い人間関係を取り戻して頂けるよう間に入ることもあります。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩やドライブに入居者さんをお連れすると「以前来たことがある」とか「昔ここでこういうことがあった」とか懐かしそうに話されることがあります。個々の入居者さんの把握をし会話のなかで話題にしたりその後の外出コースを考えたり工夫しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の人間関係は時に難しいものがあります。主義主張が強く相手を受け入れることが出来なくなってきた方もいます。職員は趣味、好みを見つけそれを話題に間に入って関係修復する事も有ります。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されなくなった利用者の御家族ともその後お付き合いを している方もあります。ごり世いう去れた方とは「ご縁」があつた 方と受け止め入居と言う関係が途絶えても「ご縁」は大切にし たいと考えてます		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者個々にあつたケアが出来るように職員で話し合いなが らより良いケアの実現に努めています	○	センター方式の勉強会をして介護職員が個々の居室担当 について作成してます。作成してく過程で生活歴等個々の 利用者さんを理解するのに役立っています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者個々の生活歴やなじみの暮らしかたを知る努力をし ています。予後を予測し今を大切にす認知症ケアを進める 努力をしています。		センター方式の勉強会をして介護職員が個々の居室担当 について作成してます。作成してく過程で生活歴等個々の 利用者さんを理解するのに役立っています。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者個々にあつたケアが出来るように職員で話し合いなが らより良いケアの実現に努めています。生活リハビリのよう なものもレク感覚でできるよう職員で話し合い個々に対応し てます。		センター方式の勉強会をして介護職員が個々の居室担当 について作成してます。作成してく過程で生活歴等個々の 利用者さんを理解するのに役立っています。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に職員や家族と話し合いながら介護計 画を作成してます。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人の状況に変化が生じた場合には、介護計画を即見直 しています。その際施設長、介護職員、ケアマネージャーが話し合 い、時には家族にも加わって頂き新たな介護計画を作成し ています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきなどは個人記録に記入し情報の共有化を図っています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議には町内会長さん(民生委員兼務)に参加頂いたり、防災に関しては地域の消防署との連携を図る努力、働きかけをしています。		今以上に地域との関係をよりよいものにしていきたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネジャーとの交流は進めています。特に入居された利用者さんの担当されたケアマネジャーとは連絡を取り合い入居後のケアの参考にしています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメントは今のところ必要ではありませんが、地域包括支援センターとの交流は継続して行なって情報交換をしているので必要性が生じたときは即対応できます。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関として城西クリニック、ときわ公園クリニック、県立総合病院、厚生病院、済生会病院と契約しております。特に城西クリニック、ときわ公園クリニックは往診していただき、かつかかりつけ医の働きをしており、ご本人や御家族に安心して頂いています		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	城西クリニックは、神経科、内科、心療内科を併設しており、認知症の相談にも気軽に応じていただいています		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職は配置してませんが、系列のライフサポート昭府、ライフサポート城北には看護職が常駐しておりますので、利用者の健康管理について相談できる体制はできています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院された場合に、御家族と相談し退院後のためにお部屋を確保して安心して療養して頂いております。その間ご家族はもとより病院のソーシャルワーカーや看護師、医師と連絡を取り合って退院後のグループホーム復帰をスムーズに進めるようにしております。また職員も面会に行き、励ましスムーズなグループホーム復帰を促進しています		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族のご要望があれば、重度化した場合の介護や終末期の介護もお引き受けしております。かかりつけ医の協力のもと進めていきます。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期にむけたケアについて職員間で協議しています。過去、施設で終末期をすごされた入居者さんもおられますのでチームとして支援について過去の事例の反省点を協議し、心安らかに過ごして頂けるよう努めたいと思います。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人がグループホームから別の居所に移り住む際、居宅支援事業所のケアマネージャーや御家族連絡を取り合い住み替えによるダメージを少なくするよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		センター方式を利用し個々にあったサービスのさらなる追及に努めたい
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、個々の排泄パターン探し、トイレ誘導等を行ってます。成功されるとご本人はもとより、ご家族も喜ばれ、スタッフもケアを行う上で励みになってます		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各ユニットごとに一般家庭用のお風呂が一箇所ずつ設置されています。今のところ利用者一人一人の希望に添える入浴は出来てません		入浴時間の調整を何度か試みてますが好きな時間、好きなときにという形がまだ実現できてません。今後も個々の希望になるべく近づける努力をしていきたいと思えます
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活習慣にあわせて休息や安眠が取れる様、ベットを外し布団でやすんで頂いたり工夫をしています。不安から夜間眠れない利用者さんについては職員が付き添い安眠できるお手伝いをしています		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農家の出の利用者さんに家庭菜園の作業にスタッフとともに参加していただき、収穫したものをまた他の利用者さんがスタッフとともに調理し食卓にのぼっています。個々の役割をもつことで生きがいを感じていただいています		今現在は決まったかたが台所等を一緒にしいてくれますがもっとたくさんの方と調理等できる場面を増やせるよう考えていきたいです。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お祭り等に出かけたときに個々にお金をもっていただき使っています		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	認知症の強い利用者さんについての一人の外出は無理ですが、外出可能な利用者さんについては基本的に自由に外出していただいています		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に数回マイクロバスで遠足に出かけてます。その日はご家族にもお声をかけて一緒にして頂いています。利用者さんの笑顔、ご家族の喜ぶ顔を見てスタッフも次の計画をたてる励みになってます		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を使い希望時に電話を掛けるお手伝いをしています		レクの時間に手紙を大切な人を書く等の支援をしていければと思います
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室は個室ですので、訪問者はご本人の居室で自由にお過ごしいただく各階ホールをご自由に使っていただいております		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアは当然のことと受け止め実践しています。歩行困難な方に関して自力で歩こうとして転倒、骨折する等という事例が発生しています。利用者さん本人の頭のなかでは歩けると、でも体がついていかないと実情があります。この場合ご本人の安全を考えご家族のご了承のうえ車椅子上で安全ベルトを使用しています。その他の身体拘束		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関には日中鍵を掛けないケアを実践しています。認知症が強く外出してしまう入居者さんについては無理に止めることはせずスタッフが根気強く付き合っ施設まで帰ってくる等の努力をしています		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご本人のプライバシーを配慮しながら昼夜を通して入居者さんの所在や様子を把握し安全に配慮しています		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤等の取り扱いに注意をようする入居者もいるので個々に対応を考え全てなくようなことはしていない		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、窒息、誤薬等医療に関する対応と、行方不明等の対応、防災等の対応については別々にマニュアル等を参考に勉強会を実施しております。防災訓練は施設訓練と鎌田地域の町内会と合同で実施しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応についてはマニュアルを作成し、職員に徹底しており、主治医の指示を仰ぎ、救急搬送が必要な場合は救急隊に連絡し病院へ送っています。応急手当等は所奪う救急隊の指導により訓練を行なっております		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策は年2回以上の防災訓練を実施、鎌田地区町内会と連絡を取りながら地域の防災訓練に参加しています		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居される際にご家族にリスクについて説明しますが、それだけでは不十分ですので、面会の際に説明したり、家族会等でも説明しております。一律にリスクがあるからやめるということではなく、どうしたらひとりひとりに合ったケアができるかを職員で話し合っております。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	「普段とどこか違う」と気付くことが大切です。気付いたら直ちに連絡しあい、医師に連絡、指示を仰ぐ、家族に連絡し、つぎの対応に移る。すぐ受診する、救急要請する等健康面での対応は第一に優先しています		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ケアは職員の大切な仕事の一部です。利用者一人ひとりの服薬内容を理解し、服薬確認と誤薬防止について徹底するようにしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	医療に関する施設内の勉強会で学んでいます。排泄介助もオムツからトイレで。座ることで排便を誘発しやすくし、水分補給、食物繊維の摂取等日々のケアで出来る事を実践しています		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後一人ひとり歯磨きを行なっています。義歯のかたについては夜間洗浄剤を使って諸毒をしています		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスは栄養士、現場スタッフと相談しながら作成実施しています。水分補給は決められた時間のみでなく摂取して頂けるようケアしています		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防についてもマニュアルを作成し、勉強会を開き実践しております。手洗いの励行、マスクの使用等症状に応じた対策をしています		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の予防も大切なことです。台所、調理用具の消毒は毎日実行しています。食材は週2回以上買物に行き新鮮な食材を購入しています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りにフラワーポットを置き、花を育て入居者と一緒に楽しんだり夏場、日中は玄関を開けっ放しにしておりますので、入居者は玄関先のベンチで寛いだりしています。建物の西側には菜園をつくり、入居者と野菜等を栽培し美味しく頂いています		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に季節の花を飾ったり、入居者の絵画や手芸の作品を飾ったり、行事の写真を掲示したりしています。又各居室のまえには毎月月ごとに合わせた手作りの折り紙等で季節を感じていただいています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階、2階に談話コーナーが設けられており、気の合った入居者同士が話しをしたりしています。また一人で過ごされてる方もおりますがゆっくりした時間が流れています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に今までご家庭で過ごした居間をそっくりお持ちになって生活してる方、また必要最小限の荷物しかお持ちになって生活してる方もいます。ご家族にはご本人の使ってたものをお持ちになって下さいとお話しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気システムがありますが、冬でも一日一回は窓を開放し空気の入替えています。夏場は自然換気に気を使い窓を開放しています。気温が高くなり、室温の上昇する場合にはクーラーを作動させ温度調節を行なっています。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、風呂場、居室に手すりを付け、身体機能をできるだけ活用出来るようにしています。希望者で必要と医師の指示のある方には、訪問リハを受け入れ平行棒を使った機能訓練をしております。生活リハを重視し機能低下をできるだけ遅らせる努力をしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症の進行により生活に混乱を来たす時がありますが、出来るだけ進行を遅らせる取り組みをスタッフ全員でしています。否定をせずその人の有るがままのを受け入れその人らしさを尊重するケアをしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の西側には小さな菜園をつくり入居者と季節の野菜を育て楽しんでます。昨年秋には2階のベランダで運動会を開催し、入居者、ご家族のみなさん大いに楽しんで頂きました		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)